

## 「あたり前について」

3年 H.A

みなさんにとってあたり前とはどのようなことでしょうか。朝決まった時間に起きて、身支度をして朝ごはんを食べて学校に行く。学校では、授業を受けたり友達とおしゃべりをしたりして過ごし、放課後は部活に励む人もいればすぐに家に帰る人もいるでしょう。家に帰ったら、夕ごはんを食べたりテレビを見たり、お風呂に入ったり宿題をしたり…など毎日少しずつ違うところはあっても、私の日常はこんな感じです。今までは、これらの一つ一つに対して毎回「ありがたい」などと感じることもなく、こんなふうに過ぎてゆく、「明日」があたり前のように来ると感じていました。しかし、それがあたり前ではないと気付かされる出来事がありました。

夏休み中、私は入院をしました。私はそれまで入院したことがなかったし、また、今年の夏も、今までの夏休みを同じような毎日があたり前のように来ると私は感じていました。そのため、そんな私にとって、入院というのはとてもつらいものでした。最初のほうは、襲ってきた痛みに耐えるのに必死で、耐えきれずに涙を流すこともたくさんありました。痛みがなくなっても毎日不安だったし、食べ物も二週間近く口に出来ませんでした。入院してこんな状態になって、初めて私は普通の日常生活を送れている人を、とても羨ましく思いました。それとともに、私が送ることの出来ていた生活は、全然あたり前ではないことに気付かされました。入院中はつらかったけれど、私には看病してくれた母親がいて、心配してくれた家族や友人がいて、治す手助けをして下さった病院の先生や看護師さんがいて、そして、治ったら帰る家もありました。思い返してみると、こんな時でも、様々な場面で私にとっての幸せがありました。これらのことから、何不自由なく生活出来ることがどれだけありがたく幸せなことか、強く実感しました。

私が入院したのは一時的でした。しかし、世の中には急に長い間、もしくは一生不自由のない生活が出来なくなってしまう人もいます。そうなる例の一つに、災害が挙げられます。

今年も、大阪や島根など、西日本を中心として、地震や台風、大雨、夏の猛暑など、本当に多くの災害が起きました。中でも、地震や台風、大雨の被害は特に大きく、家を無くしてしまったり、家族と離ればなれになったり、大切な人や物を失う人もたくさんいたはずですが、もし死んでしまったら、二度と明日は来ません。突然日常を失うことがあるなんて、今まで私は考えたこともありませんでした。でも、自分が普通の生活が出来ない状態になってみて、初めて、私は今までの「あたり前」に心からありがたみを感じました。今回私は治る病気でしたが、もしかしたらこれから治らない病気になるかもしれないし、事故にあう可能性だってあります。例で書いたように、災害の被害を受けることもあるかもしれません。でも、明日が来ないかもしれない、などと考えながら日々を過ごすことはつまらないし、意味がないと思うので、私はその分一日一日を大切に過ごしたいです。普通にやってくる日常はあたり前じゃない、つまり私にとってのあたり前は、あたり前なんかじゃなく、本当に貴

重で幸せで、ありがたいことなのだということに今回気付くことが出来て、本当に良かったです。これから日々を過ごしていく上で、今までのあたり前に自然と感謝の気持ちをもてるような人になっていきたいと思います。